

◎「金融教育を考える」第4回 小論文コンクール 募集要項

2007年テーマ

1. 金融教育(①生活設計・家計管理、②経済や金融の仕組み、③消費生活・金融トラブル防止、④キャリア教育)に関する授業や学校行事での実践報告
2. 金融教育をさらに普及・推進していくための提言
3. これからの時代に求められる金融教育のあり方
4. 金融教育に関する研究報告

[応募資格] 全国の幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教師、大学院生、大学教員等研究者

- [賞]
- 特賞 1編(賞状と賞金20万円)
  - 優秀賞 2編(賞状と賞金5万円)
  - 奨励賞 5編(賞状と賞金1万円)

※入賞者全員に、知るぽると特製カレンダーを差し上げます。

[締め切り] 平成19年9月30日(日)※消印有効

[発表] 12月下旬、金融広報中央委員会HP(www.shiruporuto.jp)などで発表。※入賞作品集は平成20年2月発行予定。

[審査員] 阿部信太郎(城西国際大学専任講師) 宇都宮健児(弁護士) 工藤文三(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長)  
(敬称略・五十音順) 西村隆男(横浜国立大学教授) 牧野カツコ(お茶の水女子大学名誉教授)ほか

[表彰式] 日本銀行本店にて開催

[送付先] 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル内郵便局留  
「金融教育を考える」小論文コンクール係

[問い合わせ先] TEL.03-3212-6165(土・日・祝日を除く10時~17時)

※応募者の個人情報は当コンクール以外の用途には使用いたしません。

「金融教育を考える」第4回 小論文コンクール 応募用紙			
選択テーマ	作品タイトル	勤務先(所属先)名 (ふりがな)	
名前 (ふりがな)	年齢	性別	
	歳	男 ・ 女	
勤務先(所属先)住所	〒	-	
		都道 府県	
勤務先(所属先)電話番号			
自宅住所	〒	-	
		都道 府県	
自宅電話番号			

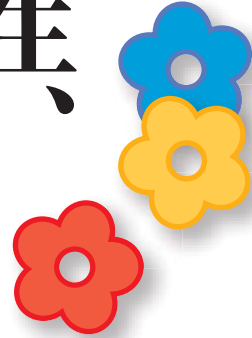
※応募に際し下記内容に相違なければ必ず  に  を入れてください。

この作品は当コンクールのために私が執筆した未発表のものです。

事務局記入欄



先生、  
おかねの魅力と魔力を  
どんなふうに教えていますか。



あなたの実践例やご意見をお待ちしています。

金融教育  
を考える

第4回小論文コンクール

9月30日締切

知るぽると

金融広報中央委員会

www.shiruporuto.jp

(主催)金融広報中央委員会

(後援)金融庁、文部科学省、日本銀行

おかねは活用すれば生活を豊かにする魅力があります。

### 金融教育とは？

金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育です。  
金融教育では、現実の社会の中で生きていくのに必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身につけることなどを目的としています。  
この金融教育の目標を大きく整理すると、下の図に示すとおり、「生活設計・家計管理」「経済や金融のしくみ」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」の4分野となります。

### 『金融教育プログラム』とは？

学習指導要領には金融教育という言葉そのものは載っていませんが、金融教育が目標としてしている内容はほとんどすべて学習指導要領に含まれています。そのため、学習指導要領が目指している力を育むには、金融教育を積極的に取り入れることが多いに役立ちます。  
そのお手伝いをするのが、金融広報中央委員会が平成19年2月に発刊した『金融教育プログラム―社会の中で生きる力を育む授業とは―』です。  
平成17年6月に閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005」では、「金融を含む経済教育等の実践的教育……を推進する」ことが明記されました。このことを受けて、同年7月に、内閣府、金融庁、文部科学省と金融広報中央委員会により、「経済教育等に関する関係省庁等連絡会議」が設置され、平成17年度から18年度における各省庁等の取り組み内容がまとめられました。  
『金融教育プログラム―社会の中で生きる力を育む授業とは―』は、この取り組みの一環として金融広報中央委員会が作成したものです。



### 『金融教育プログラム』がみなさまのお手伝いをします。

『金融教育プログラム―社会の中で生きる力を育む授業とは―』は、すでに全国の小・中・高等学校にご送付させていただいております。その中には、金融教育を学校で取り上げるにはどうしたらいいかを分かりやすく説明しています。たとえば、次のような疑問にお答えします。

- 「金融教育って何？」
- 「小学校、中学校、高等学校のどの科目でどんな内容をとり入れたらいいか？」
- 「どんな効果が期待できる？」
- 「教材を用意するにはどうしたらいい？」
- 「学習指導要領との関係は？」

### 『金融教育プログラム』に掲載している指導計画の一例です。

- 小学校／社会科
  - ・くらしを支える水について調べてみよう
  - ―水の旅マップづくり―（第3～4学年）
- 小学校／家庭科
  - ・買い物名人になろう―計画的な買い物のこつを身につける―（第6学年）
- 小学校／総合的な学習の時間
  - ・お店を開こう!!―商品制作・販売活動など体験活動を通して、経済のしくみを理解させる―（第5～6学年）
- 中学校／社会科
  - ・家計のシミュレーションゲームと模擬商談―身近な経済活動を疑似体験し、その意義を知る―（第3学年）
- 中学校／技術・家庭科（家庭分野）
  - ・生活に必要な金融商品を知って、選択する眼を持つ―家庭生活と消費に関心をもち、豊かな生活を―（第2学年）
- 中学校／総合的な学習の時間
  - ・お金について調べよう―調べ学習のスキルを身につけよう―（第1学年）
- 高等学校／公民科（現代社会）
  - ・クルマの“窓”から経済をのぞいてみよう
  - ―企業の役割と経済活動の在り方―（第1学年）
- 高等学校／家庭科（家庭総合、家庭基礎、生活技術）
  - ・ライフプランを立ててみよう―自立した社会人になるために―（第1～3学年）
- 高等学校／総合的な学習の時間
  - ・社会に貢献できる会社をつくらう―企業家教育の観点をもった総合的金融教育の試み―（第1～3学年）

## 『金融教育プログラム』なども参考にしながら、あなたの具体的な取り組みの報告をお寄せください。また、いかにして金融教育を進めていくべきか、先生方の貴重な提言もお待ちしています。

小論文執筆にあたっては次の点にご注意ください。

- 本文の文字量は、2000～8000字（ワープロ可。ただし途中の空白マス・空白行を含む）に収めてください。
- 資料（写真・図表・指導計画書等）については、文中もしくは文末へ添付してください。ただしA4用紙10枚以内（A3用紙の場合5枚以内）の分量とし、それぞれ資料であることを明記してください。
- 横書きを基本としてください。

### 小論文を書くにあたって

- 本リーフレット外面にある応募用紙に、選択テーマ、作品タイトル、勤務先名、氏名（ふりがな）、年齢、性別、勤務先、自宅の住所・電話番号を記入し、応募作品に添付してください。
- 応募用紙はコピー可。ホームページからもダウンロードできます。
- 著書、雑誌、新聞、研究発表等からの引用は、必ず出所を明記してください。
- 本文の引用箇所末尾に※を付し、その出所を文末、または章、節の末尾に記載してください。
- 引用が複数ある場合は、※1※2のように番号をふってください。

- 出所は、著者、書名、引用ページ、出版社、出版年、新聞名、日付、ホームページ名、アドレス等を必ず明記してください。
- 添付資料についても出所をもなく明記してください。

- 作品は未発表で日本語に限ります。
- 作品は理由を問わず返却しません。
- 入賞作品の著作権・版權は主催者に帰属します。

おかねは、時に人生を台無しにする魔力も秘めています。